



水野さんに対するパワハラの実態 その②

振り返り教育という名の隔離は人権無視だ！

水野さんは事が起きた当日、昼前退出の行路にも関わらず、19時位まで長時間に渡り時系列等報告書の作成を指示されました。更に、井出助役から「そんなの飲んでるんじゃないねえ！」と言われ、6月下旬の暑い最中にも関わらず、ペットボトルのお茶を取り上げられます。不安に思った水野さんは、それ以降できるだけ会話を録音することにしました。

時系列等報告書を書き終わると、「次から日勤ね」と言われ、水野さんだけが乗務を降ろされてしまいます。出勤すると、「助役室」という部屋で指示された書き物を仕上げるように言われ、更に、翌週からは東京運輸所の食堂の奥にある、「第四会議室」という人気もなく窓のない部屋に1日中閉じ込められ、誰とも会えなくなってしまう。また、井出助役から、「部屋には内側から鍵をかけておくように」と言われ、会社が言う「振り返り教育」は、密室で行われることになったのです。



井出助役は裁判の証言で、「鍵をかけておくように指示したことはない」と言いましたが、水野さんが提出した録音(証拠)では、部屋の鍵を解錠する時、井出助役が外から「山」と言って、水野さんが「川」と言いながら解錠しているのが記録されていたのです(符牒^{ふちょう})。井出助役が内側から鍵をかけるよう指示していたのは明白です。振り返り教育とは言え、

事実上の軟禁状態に置くことは人権問題にも当たります。会社は、裁判で嘘を言っても、この事実を表に出したくなかった・・・のは、容易に想像できますね。

※符牒・・・同業者内、仲間内でのみ通用する言葉